

堀尾吉晴の一生
紙芝居原画飾る

市営バス車内

松江、安来両市の3公民館が制作した、松江開府の祖・堀尾吉晴（1543～1611年）の一生を描いた紙芝居の原画が27日、松江市営バスの車内に飾られた。

車内の広告スペースに市



紙芝居原画を飾り付ける職員

民の作品を並べる「ギャラリーバス」の取り組みの一環。5月31日まで、平日は北循環内回り11便、土日祝日は同外回り10便を運行する。

紙芝居は、松江城の築城までを中心に、吉晴の一生を紹介。絵は松江市在住のイラストレーター、タブチサトシさんが手掛けた。

全部で40枚あり、今回展示したのは表紙と最初の部分の6枚で、関ヶ原の戦いの後、堀尾親子が出雲隠岐の地図を見て話し合うシーンなどを描いている。順次、入れ替えていくことにしている。

城西公民館の森泰館長（73）は「市民の皆さんに吉晴の生きざまを知ってもらい、松江に愛着を持つきっかけになればうれしい」と期待を込めた。

（河野亜美）